

施策評価シート

施策等名称	地域における子どものスポーツ機会の充実	体系番号	0201020501
		主管課	スポーツ健康課

1 施策基本情報

現状と課題	少子化による遊び仲間の減少、情報化の進展やテレビゲームの普及等生活スタイルや遊びの内容の変化により、自然の中で遊ぶ機会が減っています。体を動かして遊ぶ機会が減少することは、その後の児童・青年期での運動や能力の育成だけでなく、対人関係などコミュニケーションをうまく構築できないなど、心の発達にも影響を及ぼすと考えられます。スポーツの実施面ではスポーツクラブや学校の部活動等が中心で、スポーツをする子と、しない子の二極化が進んでいます。部活動時間外の社会体育活動は、現在、県で今後のあり方について見直しをしています。
めざす将来像 (あるべき姿、基本的な考え方)	幼児期から中学生期の運動教室が、幼稚園・保育所、小中学校に普及し、運動やスポーツをする元気な子どもが増加している

施策指標	指標名称	指標の説明(単位)	計画策定時	2022年度目標値	2027年度目標値
				10	10
①	園児・児童へのスポーツ教室の実施	スポーツ教室数	5	10	10
②	ジュニアスポーツ教室参加人数	ジュニアスポーツ教室累計参加者数(人)	2,368	3,000	3,000
③					

施策の柱 1	名称	幼児期からの子どもの体力向上対策の推進		主管課	スポーツ健康課		
	詳細	子どもの体力・運動能力向上に積極的に働きかけ、スポーツに苦手意識のある子どもでも気軽に参加できるイベント等を開催することで、幼児期からの全身と五感を使った自然の遊びの実現に取り組む。					
	まちづくりの目標指標	指標の説明(単位)	計画策定時	2022年度目標値 2027年度目標値	柱を構成する主要事務事業	区分	
	1	幼児トリム教室開催数	幼児トリム教室の開催数	3	6 6	1 教室開催関連事業	実施
	2	小学生エンジョイス ポーツ教室開催数	小学生エンジョイス ポーツ教室開催数	1	3 3	2 3	
	3	ひよこ教室開催数	ひよこ教室開催数	1	1 1	4 5	
	基本政策間連携						

施策の体系	名称	子どもを取り巻く社会のスポーツ環境の充実		主管課	スポーツ健康課		
	詳細	スポーツ少年団への加入を促進するとともに、適切な指導ができる指導者の育成を図る。また、他校や競技団体との連携等、運動部活動の柔軟な運営を促進、充実させる。					
	まちづくりの目標指標	指標の説明(単位)	計画策定時	2022年度目標値 2027年度目標値	柱を構成する主要事務事業	区分	
	1	スポーツ少年団員数	スポーツ少年団登録者数(人)	360	360 360	1 スポーツ団体等支援事業	実施
	2	ジュニアスポーツ教室 参加者数	ジュニアスポーツ教室累計参加 者数(人)	2,368	3,000 3,000	2 教室開催関連事業	実施
	3					3 4	
	基本政策間連携						

施策の柱 3	名称			主管課			
	詳細						
	まちづくりの目標指標	指標の説明(単位)	計画策定時	2022年度目標値 2027年度目標値	柱を構成する主要事務事業	区分	
	1					1 2	
	2					3 4	
	3					5 6	
	基本政策間連携						

施策等名称	地域における子どものスポーツ機会の充実	体系番号	0201020501
		主管課	スポーツ健康課

2 指標等の推移と変動要因

体系区分	成果指標名	計画策定時	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
指標No.		中間目標値	実績値 / 達成率(実績値÷目標値)				
施策	園児・児童へのスポーツ教室の実施	6	7	7	3	5	6
1		10	70.00	70.00	30.00	50.00	60.00
変動要因等	2018年度	北部地区小学生エンジョイスports教室を新たに実施することができ、1教室の増加となった。					
	2019年度	前年と同様に教室を実施することができた。					
	2020年度	新型コロナウイルス感染拡大防止のため回数が減ってしまいました。					
	2021年度	コロナ禍のため、参加人数を減らしての教室になりました。					
	2022年度	コロナ禍で開催回数が減少したが、開催を再開し、以前と同程度の開催となった。					
施策	ジュニアスポーツ教室参加人数	2,368	1,832	3,071	-	0	0
2		3,000	61.07	102.37	-	0.00	0.00
変動要因等	2018年度	陸上競技が実施できなかったことや、野球やバレーボール部員の減少に伴い、参加者数が減少となった。					
	2019年度	ソフトテニス、ハンドボール、バレーボール、バスケットボール、軟式野球、陸上競技の6種目を実施することができた。					
	2020年度	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止としました。					
	2021年度	中学生を対象としたスポーツ教室でしたが、各協会からの指導者の手配が難しいことから休止とした。					
	2022年度	中学生を対象としたスポーツ教室でしたが、各協会からの指導者の手配が難しいことから休止とした。					
柱1	幼児トリム教室開催数	3	3	3	1	3	3
1		6	50.00	50.00	16.67	50.00	50.00
変動要因等	2018年度	前年と同数の開催数であった。					
	2019年度	講師の手配ができず、教室開催数を増やすことができなかった。					
	2020年度	新型コロナウイルス感染拡大防止のため回数が減ってしまいました。					
	2021年度	コロナ禍のため、参加人数を減らしての教室になりました。					
	2022年度	コロナ禍で開催回数が減少したが、開催を再開し、以前と同程度の開催となった。					
柱1	小学生エンジョイスports教室開催数	1	2	2	1	1	1
2		3	66.67	66.67	33.33	33.33	33.33
変動要因等	2018年度	北部地区小学生エンジョイスports教室を新たに実施することができ、1教室の増加となった。					
	2019年度	前年と同様に教室を実施することができた。					
	2020年度	新型コロナウイルス感染拡大防止のため回数が減ってしまいました。					
	2021年度	コロナ禍のため、参加人数を減らしての教室になりました。					
	2022年度	コロナ禍のため、参加者が減少したが、徐々に増えてきている。					
柱1	ひよこ教室開催数	1	1	1	1	1	1
3		1	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
変動要因等	2018年度	前年と同数の開催数であった。					
	2019年度	前年と同数の開催数であった。					
	2020年度	コロナ禍の中ではありましたが、計画どおり開催しました。					
	2021年度	コロナ禍の中ではありましたが、計画どおり開催しました。					
	2022年度	コロナ禍の中ではありましたが、計画どおり開催しました。					
柱2	スポーツ少年団員数	360	350	311	308	398	332
1		360	97.22	86.39	85.56	110.56	92.22
変動要因等	2018年度	小学校3年～6年生の児童数が減少していることや、競技系スポーツが敬遠される傾向にあること等が推考される。					
	2019年度	小学校3年～6年生の児童数が減少していることや、競技系スポーツが敬遠される傾向にあること等が推考される。					
	2020年度	小学校3年～6年生の児童数が減少していることや、競技系スポーツが敬遠される傾向にあること等が推考される。					
	2021年度	児童数は減少しているが、スポーツ少年団に中学生の活動団体が加入したことが影響している。					
	2022年度	少子化及び子どもの習い事の多様化が影響し、減少していると推考される。					

施策等名称	地域における子どものスポーツ機会の充実	体系番号	0201020501
		所管課	スポーツ健康課

No.	成果指標名	計画策定時	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
		中間目標値	実績値 / 達成率(実績値÷目標値)				
柱2 2	ジュニアスポーツ教室参加者数	2,368	1,832	3,071	-	0	0
		3,000	61.07	102.37	-	0.00	0.00
変動要因等	2018年度	陸上競技が実施できなかったことや、野球やバレーボール部員の減少に伴い、参加者数が減少となった。					
	2019年度	ソフトテニス、ハンドボール、バレーボール、バスケットボール、軟式野球、陸上競技の6種目を実施することができた。					
	2020年度	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止としました。					
	2021年度	中学生を対象としたスポーツ教室でしたが、各協会からの指導者の手配が難しいことから休止とした。					
	2022年度	中学生を対象としたスポーツ教室でしたが、各協会からの指導者の手配が難しいことから休止とした。					

施策等名称	地域における子どものスポーツ機会の充実	体系番号	0201020501	
		主管課	スポーツ健康課	

3 評価・改革改善

(単位:円)

項目		2018年 (前年度比)		2019年 (前年度比)		2020年 (前年度比)		2021年 (前年度比)		2022年 (前年度比)		
投資額	事業費(円)	6,516,001		6,846,000	1.05	6,517,000	0.95	4,470,633	0.69	4,848,357	1.08	
	うち一財(円)	5,911,001		6,191,000	1.05	5,731,000	0.93	3,829,500	0.67	4,451,357	1.16	
	増減理由 (一般財源 前年度比 ±10%以上 の場合 に記載)								コロナ禍で教室を中止することが多く、講師謝礼や参加料の減があったため。		前年度は中止だった大会や教室が再開したことにより歳出の増となった。	
進捗評価		おおむね順調		おおむね順調		おおむね順調		おおむね順調		おおむね順調		
総合評価	主な取組内容や成果	幼児児童向け教室は前年規模で開催、北部地区小学生スポーツ教室を新たに開催できたことで、運動機会を増やすことができた。中学生の社体活動の見直しと重なったジュニアスポーツ教室は、参加者が減少した。		天候がよく、屋外スポーツの教室が開催できたことにより前年の実績を上回る事ができた。幼児児童向け教室は前年規模で開催、北部地区小学生スポーツ教室を新たに開催できたことで、運動機会を増やすことができた。		新型コロナウイルス感染症拡大防止対策をしながら、開催できた教室もありますが、延期や中止が多かった。		広報やHPに掲載することで参加希望者は予定数を上回る状況であり、抽選で参加者を定めることがあります。しかし、コロナ禍で施設の閉館等があり計画した回数を実施できませんでした。		(R4・総括評価共通) コロナ禍以前と同数の教室を開催することができた。参加希望者は回復し増加傾向にある。		
	課題	幼児トリム教室は定員を超える応募があるため教室を増やしたいが、補助員の確保が難しい。中学生期のスポーツ活動指針が改定され、部活動の延長上の社会体育活動が廃止された。		幼児トリム教室は定員を超える応募があるため教室を増やしたいが、補助員の確保が難しい。天候に成果が左右されない教室の開催を検討したい。		コロナ禍での教室の開催方法や参加人数の調整などの検討。		コロナ禍での教室の開催方法や参加人数の調整などの検討。		(R4・総括評価共通) 幼児トリム教室は定員を超える応募があるため教室を増やしたいが、補助員の確保が難しい。平日夕方に総合体育館に来ることができない方々に対応する教室の開催について検討したい。		
改革・改善	改革・改善内容	定員を超える応募があった幼児トリム教室を、現状の補助員で対応できる最大限の回数まで増やし、より多くの方に受講してもらえるようにする。		引き続き教室の講師、補助員を探すとともに、小中学校体育館を使用し、教室の開催数を増やすことにより、各地域ごとで開催し参加しやすい教室にする。		コロナ禍での教室の開催方法や参加人数の調整などの検討。		コロナ禍のため、参加者数を減らしての開催を計画した。		引き続き教室の講師、補助員の確保に努めるとともに、総合体育館以外での開催を検討し、教室の開催数を増やすことにより、参加しやすい環境を作る。		
	施策の柱等の重点化	重点化する施策の柱	1		1		1		1		1	
		重点事務事業	1		1		1		1		1	
理由	定員を超える応募がありながら、安全上・講師等の関係で定員までの人数としているため、教室数を増やし、幼児の運動機会の充実を図る。		定員を超える参加希望者にはお断りしている状況から、教室数や定員数を増やしていきたい。		コロナ前は定員を超える参加希望者をお断りしている状況であった。コロナが終息すれば教室数や定員数を増やしていきたい。		定員を超える応募がありながら、安全上・講師等の関係で定員までの人数としているため、教室数を増やし、運動機会の充実を図る。		コロナ禍も終息し、子どものスポーツに対する関心は高まってきている。少子化ではあるが、子どもの運動機会の充実を図っていく。			